

K O B E
O J I Z O O

はばたき

神戸の動植物園グラフ

SEPTEMBER 1999 No.45

神戸市立王子動物園 第45号

はじめに

神戸の動植物園グラフ「はばたき」45号をお届けいたします。

昨年から本年にかけても多くの動物が生まれました。その中でも、昨年12月のチンパンジーの『育ちゃん』、本年1月のエゾヒグマの『良ちゃん』は、残念ながら母親が育児放棄し、やむを得ず人工哺育に切り替え、担当職員には大変な負担をかけましたが今ではとても元気に育っていますので可愛い姿をご覧ください。

さて、6月上旬にワシントン条約違反により大阪市内で押収された生後1～2年のオランウータンの子4頭を王子動物園で預かっています。彼らは、東南アジアのボルネオ、スマトラ島のみに生息する大型の霊長類で、生息地の森林火災・伐採など生息環境の悪化や密猟などで減少し、野生では25,000頭前後しかないと推測されています。彼らの今後の身の振り方については、生息地への返還を含め協議されており、4頭を保管していることから連日報道各社の取材もありました。そのため飼育管理にもプレッシャーがかかり早期の解決を望んでいます。この「はばたき」が発刊される頃には結論が出ていれば良いのですが…。無邪気に遊ぶ彼らの姿を見て「野生動物の種の保存」、「生息地環境の保全」あるいは、加熱するペットブームなどの種々の問題について改めて考えさせられます。

園長 大久保 建雄



園長とエゾヒグマの「良ちゃん」

目次 CONTENTS

表紙

チンパンジー（育ちゃん）

写真：清見雅史

P1～2

巻頭言
オランウータン

園長／大久保建雄
写真：権藤真禎

P3～4

テーマⅠ チンパンジーの人工哺育

文：本田純也
写真：権藤真禎

P5～6

テーマⅡ エゾヒグマの人工哺育

文：中岡正利
写真：村田浩一

P7～8

イベント

大人のための動物園講座、夜桜通り抜け
ホッキョクグマに氷をプレゼント、サマースクール他
文と写真：清見雅史

P9～10

マングローブのクロトキ

写真：権藤真禎

P11～12

飼育レポート フラミンゴの哺育日誌

文と写真：吉竹 渡

P13～14

動物の話題・ベビー誕生
ニューフェイス・別れ

文と写真：村田浩一
飼育各班

P15～16

神戸の公園情報
須磨離宮公園・森林植物園
布引ハーブ園・花と緑のまち推進センター

P17～P18

トピックス・動物園ニュース
動物科学資料館・特別展
ZOOっとタイムズ

文と写真：清見雅史
文と写真：安宅範子
マンガ：川上博司

裏表紙

編集後記

写真 育ちゃんの手と足

副園長／森元賢典

表紙動物の説明

チンパンジー

●霊長目 ショウジョウ科●

Chimpanzee
Pan troglodytes

分 布 西アフリカのウガンダ、タンガニーカよりカブーン、カメルーンをへてガンビアまで

生息地 一般には森林に住むがタンザニアの一部ではサバンナにも住む。

写真は「育ちゃん」、本文をご参照ください。
Panとはギリシャ神話にあらわれる森林の半獣神の名。
troglodytesはギリシャ語の洞穴に住む人。





オランウータン ●霊長目 ショウジョウ科●
Orang-utan *Pongo pygmaeus*

ボルネオ島とスマトラ島の熱帯雨林に住む。

手厚い看護で元気になったオランウータンの子ども。密輸された子ども4頭が6月2日に王子動物園に保護預りされました。

テーマⅠ チンパンジーの人工哺育

●はじめに

チンパンジーはセネガルからタンザニアに至るアフリカ西部から中央部にかけての森林地帯などにすみ、主に果実や種子、木の葉、昆虫など、時には他のサルをおそったり、細い枝などを使ってアリやハチミツなどを食べます。夜になると樹上に寝床をつくって、そこで休みます。

チンパンジーの新生児は、手と足で母親の胸にしがみつきますが、その力は弱く、移動中は母親が手でささえてあげます。2～3日たつと自分の力で母親にしがみついて運ばれるようになり、5～7才ぐらいまでは、ずっと母親のそばにいます。母親は自分の子どもを毛づくろいしたり、遊んでやったりします。



王子のチンパンジー村

●リノの二回目の出産と育児放棄

現在、王子動物園にはオス2頭、メス5頭の7頭が飼育されています。ボスであるジョニーは、国内で飼育されているチンパンジーのオスとしては、最高齢で49才になります。そのジョニーとリノ（18才）との間にメスの子どもが誕生しました。1998年12月13日、リノにとっては、アーリー（6才メス）について2頭目の出産でした。母親と子どもに異常はなく、授乳も確認できました。次の日の午後には、へその緒も切れ、後は順調に育ってくれればと思っていました。ところが、生後4日目からリノが子どもを抱こうとしなくなり、ミルクもあまり与えていないようでした。しばらく様子を見ていても、子どもを床においたままにしたり、ミルクをほしがって泣いていても自分の指を子どもに吸わせて、ミルクを与えなくなりました。移動するときには、子どもを抱かずに引きずっていくようになり、子どもの体は傷だらけになりました。このままだと子どもの命が危ないという事で人工哺育にしようとなりました。



体重測定

一度は、リノと子どもを離しましたが、その時、リノがすごく暴れたしたので、もしかすると今度は大事にするかもしれないと思い、もう一度、リノの所へ子どもを戻してみました。

するとリノは子どもを大事そうに抱きあげ、ミルクを与えはじめました。ところが、大事そうに抱いていたのも1時間ぐらいで次の朝には、同じように子どもを離していたため生後6日目から人工哺育としました。その時、子どもの体は冷たくて、傷も至る所にありました。すぐにぬるま湯につけて体を温め、傷の手当てをし、人間用のオムツをしてあげ、保育器に移しました。昨日より泣きつづけ、あまり寝ていなかったためか、すぐにタオルを抱きしめて眠りました。



おむつを替えてもらっている

王子のチンパンジー村に帰れるように！

●人工哺育の始まり

この時の体重は1,552gでした。それから、1日6回、4時間おきに人間用の粉ミルクを哺乳ビンで、約50mlを与えました。この日に人工哺育が成功するようにと、「育ちゃん」と命名されました。ミルクを飲む量も順調に増えていき、生後90日目からはミルクの他にリンゴ果汁を与えはじめました。126日目には、歯（左上門歯）が生えはじめ、その頃から、すりおろしたリンゴなどを与えはじめました。そして今では、ミルクは1日3回、1回で250mlも飲むようになり、歯が12本も生えています。ミルクの他にはバナナやリンゴなども食べられるようになり、体重は5,000gをこえています。昼間は、新しい大きな保育箱に移っています。その広い保育箱の中には、育ちゃんが遊べるように棒を組んであり、最近ではそこへぶらさがって遊べるようになりました。



哺乳ビンでお乳を飲んでいる

●可愛い育ちゃんを公開展示

そんな「育ちゃん」を土、日曜日の午前11時ぐらいから、皆さんに見てもらえるようになりました。ここまで大きな病気する事もなく本当に順調に育ってくれたと思います。顔も姉のアーリーにそっくりになってきました。といっても、まだまだ赤ん坊です。ゆっくりと寝かしてあげる時間も必要なので、約1時間ぐらいの公開からはじめすこしずつ時間をのばしていきたいと思います。

●仲間入りのトレーニング

順調に育ってきましたが、本当はこれからが、「育ちゃん」にとって大変なのかもしれません。人に育てられた事によって自分の事を人間だと思ってしまうかもしれないからです。

これから母親や姉がいる群の中へ帰っていくために、

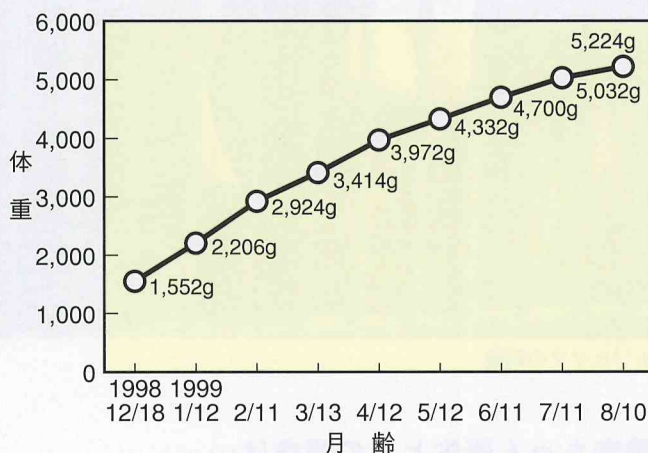


公開展示
棒にぶらさがっている



母と対面中

育ちゃんの体重記録



毎日仲間たちと対面しています。一日も早く群のなかで生活し、そして、いつの日か「育ちゃん」が元気な赤ちゃんを出産し、自分で子育てをしている姿を見たいと思っています。

それまでには、まだまだ時間がかかりそうです。

テーマⅡ エゾヒグマの人工哺育

●はじめに

エゾヒグマは北海道の川沿いの森林地帯に生息しています。体の特徴は、頭部が黄かっ色、全体が黒く胸に白い輪のあるものと、全身が赤かっ色のものの2型があります。当園で飼育しているエゾヒグマは赤かっ色の方です。体格が大きくつめも良く曲がっています。体長約2 mぐらい、体重は約250 kgまで大きくなります。食物は小動物（野ウサギ）、魚（サケ）、果実、木の葉、こん虫など雑食性です。当園では、食パン、リンゴ、サツマイモ、人参、アジ、クマ用のペレットなど1日1回与えています。出産は、1月中旬～2月下旬ごろです。出産1～2週間前は食物は殆ど食べず巣穴から外へも出ません。発情期は6～7月ごろです。妊娠期間は210日～250日で1産1～3子生まれます。生まれたときは450～500 gで小さくて短い毛が生えているだけです。約1か月で開眼し5ヶ月ほど母乳を飲んでいました。生後1年で90 kgぐらいになります。大人になるには3～4年かかります。寿命は25年～30年ぐらい。人を襲うことは余りないのですが、手負いのエゾヒグマ、子連れの雌、不意に出くわした場合などは大変危険です。



16日齢



エゾヒグマの両親

●赤ちゃん誕生とその運命は…

エゾヒグマの赤ちゃんが1999年1月14日に2頭産まれました。父親はロクジといい、1992年1月20日生まれ、母親のサトエは1992年1月28日生まれで、2頭共のぼりべつクマ牧場生まれです。生後10日目まで2頭の鳴き声が確認でき、母乳も飲んでいる様子

でした。11日目（1月25日）に子ども1頭が死亡しました。さらに1月27日母親がもう1頭の子どもの育児を放棄しました。放置していると母乳をもらえなくて死んでしまいます。早速、当園の動物病院に持ち帰り保育器に収容しました。体温が低下していたので温水で体を温め、拭いて乾かしてやると、よく鳴きとても元気になりました。性

別はオスで、愛称は「良ちゃん」と名付けました。初日（生後13日目）は昼に粉ミルク20ml、夕方に60mlほどしか飲みませんでした。生後14日目は朝、昼、夕、晩合計200mlまで飲むようになりました。

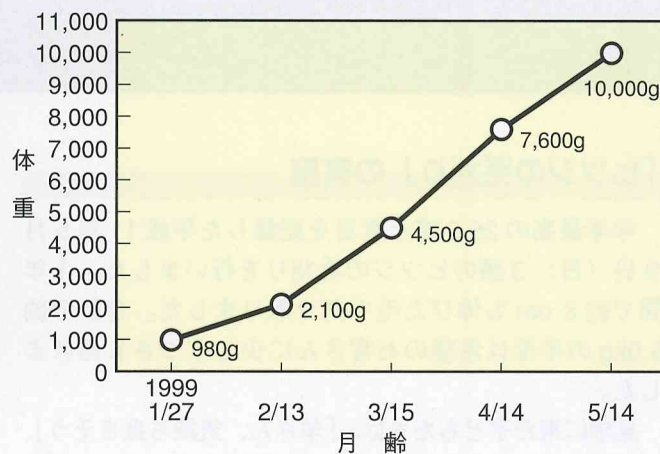
その後順調に粉ミルクを飲み続け、生後20日目には1日250ml、体重1.3 kgになりました。

生長のあしあと



エサを与えているところ

良ちゃんの体重記録



50 日 齢



お披露目の日

●すくすく大きく

30 日目には 300ml。40 日目には 450ml、体重 2.9 kg。50 日目には 540ml、60 日目から朝、昼、夕、600ml～650ml、体重 4.5 kg まで達しました。70 日目には 900ml、80 日目には 1100ml～1300ml、体重 6.0 kg、100 日目には 1600ml～1800ml、体重 8.2 kg まで成長し続けました。生後 120 日目（4 ヶ月）から食パン、リンゴ、サツマイモなど与えますとよく食べるようになりました。6 月 14 日現在、生後 5 ヶ月、体重 12 kg。今では、ミルクの量も 1000ml に減らし、当園の主食であるパン、リンゴ、サツマイモ、クマ用ペレットなど 1 日 1 kg ほど与えています。これからどんどん育っていく「良ちゃん」をよろしくね。

「夜桜通り抜け」の実施

昨年、29年ぶりに再開した『夜桜通り抜け』を本年も4月3日・4日・5日に開催いたしました。

当園の桜を220個の照明灯でライトアップすると桜のトンネルが夜空に浮かびあがりました。今年の見どころは、動物科学資料館の屋上から見る『旧ハンター

住宅』と桜のライトアップで、家族連れやカップルは園内特別通路約500mを約30分かけて夜桜を楽しんでいました。3日間で約3万6千人（昼夜の合計約10万1千人）の方が来園されました。



撮影 写真家 井川 宏之

「ヒツジの毛刈り」の実施

今年最高の26.5度と夏日を記録した平成11年5月9日（日）3頭のヒツジの毛刈りを行いました。1年間で約8cmも伸びた毛を刈り取りました。合計で約6.5kgの羊毛は希望のお客さんに少しずつさしあげました。

見学に来た子どもたちは、「羊さん、気持ち良さそう」、「あんなにたくさん毛があるとは思わなかったのびっくりした。」などと話していました。



ホッキョクグマに氷をプレゼント

本格的な夏を向かえた平成11年7月20日（火、祝）にホッキョクグマに氷をプレゼントしました。

ホッキョクグマのアイス（オス）とみゆき（メス）に135kgの氷の塊3個と飼育職員手作りのソーセージ入り氷をプレゼントしました。

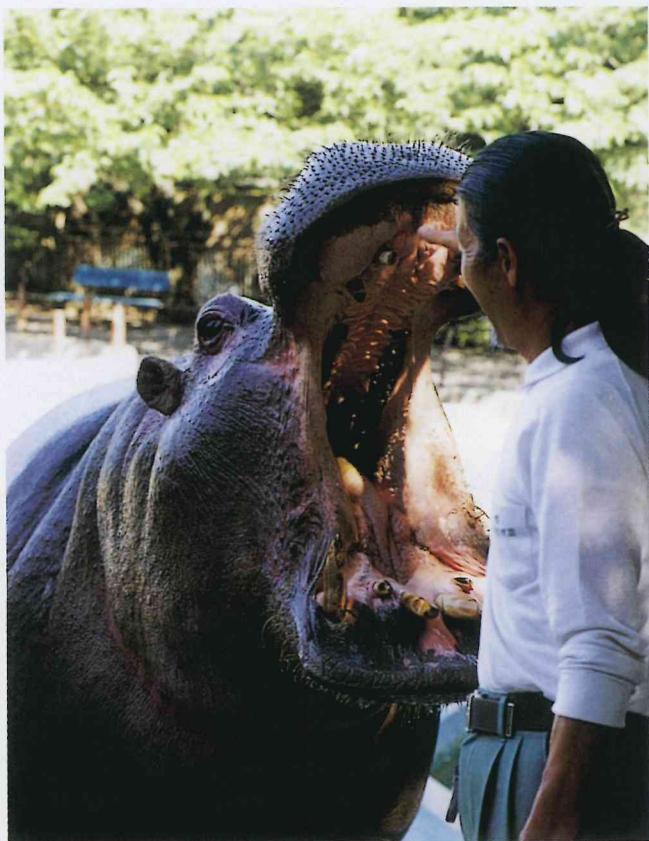
野生では、食べる事に多くの時間を費やしており、氷の中の餌を食べるために引っかいたり、かんだり、なめたりすることは単に一時の涼を楽しむ以上に意義（『エンリッチメント』飼育下の動物の生活環境を豊かにする努力。）のあることかもしれません。



「大人のための動物園講座」

カバ特集 6月27日

この講座も3回目をむかえ、今回から1種類の動物にスポットを当て（この度は「カバ」）、野生での「カバ」の現状、当園での「カバ」の飼育状況、獣医師から見た「カバ」の生物学的特徴の講義と、カバ舎などのバックヤード、調理場、動物病院の見学などをしました。



第13回動物絵画教室

平成11年8月1日と2日の両日、『小型動物たちを描こう』をテーマに、キンシコウ、レッサーパンダ、ペンギンなど、動物のことを学びながら、絵画講師の指導により楽しく絵を描きました。

絵の上達と同時に動物の観察力を養うことができました。



第10回たなばたを飾ろう

七夕の日を前にした平成11年7月4日（日）に、好きな動物のたんざくに願いを書いたり、色を塗ったり、切り抜きなどをしたりして、笹（ササ）につるし飾りつけをしました。



第29回サマースクール

『動物の飼育にチャレンジしよう!』をテーマに平成11年7月26日（月）～7月31日（土）の内5日間実施し、小学生約200人が参加しました。

子どもたちは、コアラ班、サイ・カバ班、ゾウ班、チンパンジー班、ペンギン班の五つの班に分かれて獣舎の掃除や動物たちへのえさやりに挑戦しました。

日頃入れない場所での動物たちとのふれあいや飼育職員の仕事の苦労話に新しい発見をし、良い夏休みの思い出になったことでしょう。



10 11 12
月 月 月

日

月	1	
火	2	
水	3	1
木	4	2
金	1	5 3
土	2	6 4
日	3	7 5
月	4	8 6
火	5	9 7
水	6	10 8
木	7	11 9
金	8	12 10
土	9	13 11
日	10	14 12
月	11	15 13
火	12	16 14
水	13	17 15
木	14	18 16
金	15	19 17
土	16	20 18
日	17	21 19
月	18	22 20
火	19	23 21
水	20	24 22
木	21	25 23
金	22	26 24
土	23	27 25
日	24	28 26
月	25	29 27
火	26	30 28
水	27	29
木	28	30
金	29	31
土	30	
日	31	
月		

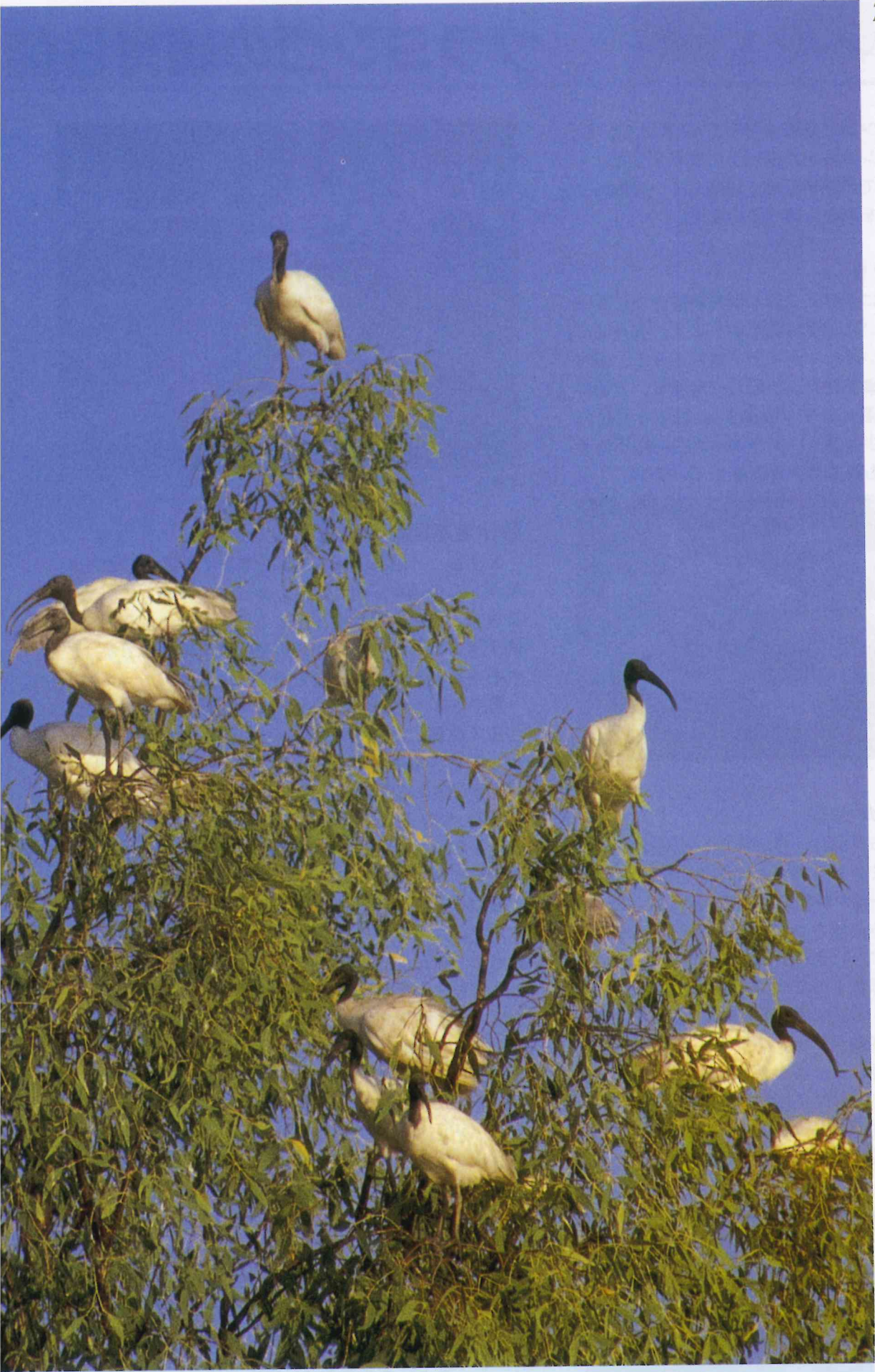


クロトキ

Oriental Ibis
Threskiornis melanocephalus

● トキ類 トキ科 ●

日本には不定期に渡来し、一年を通じている場合もある。
冬するために来ている群。



この写真はミャンマーのイラワジ川河口のマングローブの森に越

撮影者 権藤真禎

2000 CALENDAR

1 2 3
月 月 月

日			月
	1		火
	2	1	水
	3	2	木
	4	3	金
1	5	4	土
2	6	5	日
3	7	6	月
4	8	7	火
5	9	8	水
6	10	9	木
7	11	10	金
8	12	11	土
9	13	12	日
10	14	13	月
11	15	14	火
12	16	15	水
13	17	16	木
14	18	17	金
15	19	18	土
16	20	19	日
17	21	20	月
18	22	21	火
19	23	22	水
20	24	23	木
21	25	24	金
22	26	25	土
23	27	26	日
24	28	27	月
25	29	28	火
26	30	29	水
27	31	30	木
28		31	金
29			土
30			日
31			月

当園の、フラミンゴの繁殖も今年で17年目を迎え、神戸っ子のフラミンゴも300羽以上になりました。

そこで、いままでの繁殖行動を観察していて解ってきた事を、子育てを中心に述べてみます。

●集団見合いから

年末から1月頃にかけて一段と羽色が鮮やかになった彼らは皆いっせいに求愛行動を始めます。3月頃にペアを成立させていき、やがて土を盛り上げて、植木鉢を伏せたような巣を作り、1卵だけ産卵し、大切にオス、メス交代で温めます(写真1)。約1ヶ月後にふ化したヒナは、少しグレーがかかった白い綿羽におおわれ、くちばしも脚もピンク色をしています。



写真1

●父親もミルクが出る

ヒナが親からもらう餌は、赤い色をした液体です。この液体をフラミンゴミルクと呼んでいます。このミルクは、食道の一部が袋状になっている嚢(のう)と呼ばれる器官から分泌されているのです。したがってオスも分泌します。ヒナのくちばしは、親と違って真っすぐですから写真2のようにくちばしを合わせるとヒナの下くちばしにミルクがそそがれていくのです。このミルクは、栄養満点でヒナはすくすくと育っていきますが、反対に親は、あれほど美しかった羽色があせていきます。特に、ベニイロ種では育児に熱心だったオスは、ヒナが親と変わらないほど大きく育った頃に、全身が白っぽくなりヨーロッパ種と見間違えるほどです。



写真2



写真3

●保育所開設される

ヒナは、1週間から10日間頃まで巣の上におりますが、この頃から親といっしょにプールの方に出でいきます。ヒナの数が増えてくると写真3のようにヒナ同士集まるようになり、まるで保育所のようなので、これをクレッシュといいます。

野生では、営巣地の近くに何千・何万のヒナが集まり、少数の成鳥と巣立ち間もないヒナの親鳥が保母さん役としてヒナ集団に付き添っているのです。当園でも、ふ化数が少ない年には観察することがなかったのですが、ふ化数が20羽を超えるようになると、よく集まるようになり、特に成鳥達に飼育係が餌を与えている時は、必ずヒナ同士が集まっています。この頃には、ヒナのくちばし・脚の色も黒くなっています。ヒナは、ミルクが欲しい時には、鳴きながら親の脚下で催促をします。親もすぐ与えようと思っている時は、動かずにいます。するとヒナはさらに盛んに鳴きます。親も、それが刺激になりすぐにミルクが分泌されヒナに与えます。こうして、3週間から1ヵ月頃まではミルクが主ですが、この頃からくちばしも曲がり始め徐々に親に与えている餌を食べ始めます。でもまだまだミルクを欲しがります。ところが、この頃には親もあまり与える気がない時が多くヒナはミルクをもらおうと大変です。盛んに鳴きながら親を追いかけると親もついに根負けして与えます。3ヵ月頃でミルクは飲みませんが、中には甘えん坊が6ヵ月を過ぎても親を追いかけたり、1年たってもミルクをもらっている事もあります。

綿羽に包まれたヒナにも1ヵ月頃からグレーの幼羽が生えはじめ、3ヵ月頃で完全に幼羽になり体は一人前になります。そして6ヵ月頃から徐々に成羽が生え始め1年後の換羽でやっと成鳥のように美しい羽色になります。そして3~4年後には一段と美しくなり、繁殖するようになるのです。

父親もミルクで子育てをする

●一人っ子なの？

今まで、たくさんの産卵・ふ化を観察してきましたが、その間にいくつかの興味ある事を観察する機会がありましたので、2つほど紹介しましょう。

フラミンゴの繁殖は、1年に1回、1卵産卵し1羽を大事に育てると書きました。しかし、17年間で800個近くの産卵の内過去2回だけ写真4のように1巣に2個産卵し抱卵したことがありました。でもヒナは1羽しかふ化しませんでした。ミルクで育てるため複数のヒナを育てるのは、大変なのでしょう。フラミンゴは分類的には、コウノトリの仲間とガンカモの仲間の間に位置しどちらの仲間も複数のヒナを育てる仲間に近いのに1羽のヒナしか育てません。フラミンゴは食性といい繁殖習性といい独特に進化した種なのでしょう。



写真4



写真5



サマースクールでくちばしの仕組みを説明する。

●ベビーシッターがいるの？

集団繁殖する鳥の中には、繁殖していない若い成鳥が子育ての手伝いをする事が、いくつかの種類で知られていますが、フラミンゴでも数回観察する事ができました。

写真5に写っているのは、以前同居飼育していたコガタ種がベニイロ種のペアの抱卵も手伝い、両親と共にヒナの世話をし、写真6では餌を与えているところです。このような行動をヘルパー行動と言います。

●将来の夢

今後も、毎年繁殖すると思われます。他園と個体の交換を行い新しい血の導入を図り、繁殖弊害を防ぐことも必要です。そして餌場と営巣地を飛んでいく姿を見てもらえるような展示ができればいいなと思っています。



写真6

ベビー誕生

アカカンガルー

平成 11 年 4 月 23 日、育児嚢（のう）から初めて顔を出しました。



マサイキリン

平成 11 年 6 月 20 日生まれ、オスで『コテツ』といいます。雄親、『ジュン』の第 2 子、雌親『ナツコ』の 7 産目の子です。出産後、約 2 時間で立ち上がることできた元気者の赤ちゃんです。



カリフォルニアアシカ

平成 11 年 6 月 6 日生まれ。

生後 2 日目から泳ぐ練習を始め、昨年生まれた兄の『ギンタ』の時より上達が早く浅瀬を結構上手に泳いでいます。活動的な赤ちゃんは、母親『テルコ』をやきもきさせていますが、鳴き声でコミュニケーションを取りながら子育てしています。陸の上でお母さんからお乳をもらった後は、日光浴しながら眠っています。なお、父親の『チュウタ』は昨年秋に死亡しており、赤ちゃんは、『チュウタ』の忘れ形見となりました。



シロフクロウ

平成 11 年 6 月 9 日から 14 日にかけて 3 羽のヒナがふ化しました。

今、はやりの 3 兄弟です。オスは真っ白ですがメスはオスより大きくしまもようがあります。大変美しい鳥になります。

グレビーシマウマ

平成 11 年 8 月 8 日生まれ、オスで『ハヤ』といいます。

グレビーシマウマはその美しい毛皮を目当てに、密猟され、急激に生息数が減った動物で、赤ちゃんも生まれたときから大変きれいなしま模様をしています。



ニューフェイス

キンシコウ

中国から平成11年2月10日、愛称「大宝」(タイホウ・メス)8歳(1991年5月8日生まれ)が仲間入りしました。



チンパンジー

平成11年5月26日、チンパンジーのオス1頭が多摩動物公園から来園いたしました。

愛称「ケリー」といい、オスで9才9か月(平成元年(1989)年11月6日、多摩動物公園生まれ)です。当園ではオス1頭、メス5頭のチンパンジーを飼育しています。オスの名は「ジョニー」で49才。オスとしては日本最高齢です。「ケリー」はこの群の次代のボス候補として迎え入れます。



シンリンオオカミ

平成11年2月10日、愛称「キング」オス7歳(1992年4月4日生まれ。写真右)が「別府ラクテンチ」から来園し、メスの「クィーン」(左)とカップルになりました。



別れ

オオアリクイの「マツ」

平成11年3月14日(日)に急死しました。「マツ」は、年齢24歳で、当園では5年4か月飼育していた長寿の注目動物でした。



ボルネオオランウータンの「ケイタ」

平成11年1月24日(日)に死亡しました。「ケイタ」は、年齢23歳で、上野動物園から来園し、当園では約8年飼育していました。



キンシコウの「チャンチャン」 (壮壮、19才オス)



日中共同飼育研究のため、飼育していた「チャンチャン」が平成11年8月3日(火)に死亡しました。「チャンチャン」は、1992年5月13日「ウェンウェン」と共に来園し、共同研究の目的である繁殖に成功し、「アイアイ」、「ユウユウ」、「リンリン」の3頭の父親となりました。『キンシコウファミリー』の大黒柱としての功績を残しましたが残念ながら老衰により死亡しました。

神戸市立 須磨離宮公園

須磨離宮公園に行ってみよう！

「月見の宴」

毎年秋になると、中秋の名月（ちゅうしゅうのめいげつ）の夜に、昔から須磨に伝わる一弦琴（いちげんきん）の演奏や地唄舞い（じうたまい）などの催し物を楽しんでいたっています。

今年の「月見の宴」は9月24日（金）・25日（土）の2日間です。

☆休園日 毎週「木曜日」（ただし祝祭日の場合はその翌日）
お問い合わせ：

〒654-0018

神戸市須磨区東須磨1-1

☎078-732-6688

FAX 078-734-6022



神戸市立 森林植物園

自然と友だちになろう



面積142.6ヘクタール、甲子園球場の約35倍ある広大な植物園です。

園内では針葉樹を中心に、日本の代表的な樹木や世界各地の樹木、1200種20万本を育てています。

春の新緑、初夏のあじさい、夏の緑の木陰、秋のもみじ、冬の雪景色など、一年を通じて、美しい自然をたのしめます。

☆休園日 毎週「水曜日」（ただし、イベント期間中は休みません）

☆神戸電鉄北鈴蘭台駅前から定時送迎バスを通年運行しています。

お問い合わせ：

〒651-1102

神戸市北区山田町上谷上字長尾1-2

☎078-591-0253 FAX 078-594-2324



神戸市立

花と緑のまち推進センター

暮らしに花と緑を

広がる花と緑のネットワーク。
各種活動を通じてみなさまのお役に立ちます。

- 市民花壇コンクールの開催や園芸相談、園芸教室、生垣化・ベランダ緑化など緑化助成事業、各種花と緑の催しの開催など様々な啓発活動を行っています。



第48回神戸菊花展のご案内

と き：平成11年10月20日(水)から
11月23日(火・祝)まで

ところ：相楽園

主 催：神戸市・神戸菊花協会
(財)神戸市公園緑化協会

出品数：約3,000鉢

植木市：10月20日(水)～11月7日(日)

お問い合わせ：

〒650-0006

神戸市中央区諏訪山町2-8

☎ 078-351-6756 FAX 078-341-8710

園芸相談専用 ☎ 078-341-8705

E-メール webmasuter@kobe-park.or.jp

ホームページアドレス <http://www.kobe-park.or.jp>

神戸市立 布引ハーブ園



秋のハーブ・セイジ花まつり

平成11年10月1日(金)～11月30日(火)

いよいよ行楽の秋がやってきました。

布引ハーブ園ではセイジの季節を迎えています。

花と香りにつまれて食欲の秋も満喫。レストラン「ハーブ・ガーデン」のハーブ料理も好評です。

秋のハーブ・セイジ展

10月13日(水)～11月30日(火)

ハーブアート展

10月26日(火)～11月30日(火)

インフォメーション：新神戸ロープウェー「夢風船」で約10分の空中散歩。

週末は夜間開園もしています。虫の音を聞きながら神戸の夜景が楽しめます。

☆休園日 第2、第4「月曜日」
(ただし 祝祭日の場合はその翌日)

お問い合わせ：〒651-0058

神戸市中央区葺合町字山郡

☎078-271-1131

FAX 078-271-1133



メキシカン ブッシュ セイジ

●「天津市友好提携 25 周年記念」訪日団の 神戸訪問とマナヅル贈呈式

天津市副市長、夏 宝龍氏他 4 名の訪日団が、平成 11 年 3 月 23 日（火）来園しマナヅル雌雄 1 対の贈呈式を行いました。



●密輸オランウータン一時保護経過 新聞ニュースから 平成 11 年 6 月 2 日に大阪府警から預かりました。

安住の地は、警察で一泊→王子動物園 (11年) 6月3日(木曜日)

押収のオランウータン
引き取り
大阪府警押収
オランウータン4頭
落着き先決まらず
ひとまず王子動物園へ

オランウータンの子
王子動物園へ
施設探しに四苦八苦

インドネシア
オランウータン購入
大阪のペットショップから押収
日本政府に異例の要請へ

オランウータン 故郷へ
大阪のペットショップから押収
環境庁が返還方針

**密輸オランウータン4匹
原産国返還へ協議**
大阪府警が、インドネシアと通商貿易本部(通関)の保護官と、密輸オランウータン4匹を、7月11日に同国に返還する。返還先は、同国に返還されたオランウータン4匹は、同国に返還された。返還先は、同国に返還された。

安住の地はどこに...
保護のオランウータン
王子動物園で暮らす

●パンダが神戸にやってくる！

平成 11 年 8 月 11 日に「ジャイアントパンダの日中共同飼育繁殖研究協議書」の調印を終了し、来春のジャイアントパンダ導入に向けて、大きなステップを乗り越えました。

平成 11 年 8 月 12 付朝刊（神戸新聞）

神戸市と中国のパンダ共同繁殖研究

市助役が北京で調印

日、北京で研究協議書に調印した。これにより、神戸市立王子動物園(同市灘区)内に建設予定のパンダ舎に写真や中国側の技術指導の内容など、双方の研究体制が決まった。

市と同協会は今年五月に研究意向書に調印し、すでに雄、雌一頭ずつのパンダを来春四月から十月間、王子動物園で飼育する。今回の調印では、同動物園入り口の正面奥にある鳥類の飼育施設を移動し、その場所に九月から約三億円をかけてパンダ舎を建設することを決めた。約千平方メートルの敷地に、屋内外の運動場、二つずつと寝室四室、座室などを設置。来園者が見やすいように屋内外の観覧通路を長く設定し、屋外も塀ではなく、堀で囲む形式に。パンダの公開で予想される来園者増に対応するため、駐車場も拡張する。

飼育・繁殖技術については、来春三月に同動物園の二人が中国で研修を受ける。一方、パンダとともに中国側の専門家二人が来日、三ヶ月間の技術指導を行う。パンダは、この秋、同園内の繁殖センターで飼育されている中から、繁殖に適した二頭が選ばれ予定。

獣舎など体制決まる

希少動物が泣いている



獣医に甘えるオランウータンの子供たち。仮に、生まれた国で野生の森での暮らしに慣れるには、リハビリが少なくとも5年は必要だと言われる(神戸市立王子動物園で)

動物科学資料館情報

特別展「生き物のたちは今…」

1999年3月20日から8月31日まで

地球上では、たくさんの生き物たちが互いに関係をもちながら、暮らしていますが、その生きざまを生物の多様性と言います。

今回の特別展では、野生生物の減少にスポットをあてて、地球環境の悪化に触れながら、生物の多様性の現状と危機についてわかりやすく紹介しました。

展示物には、生態系のバランスを紹介した「ガラスの中の世界」、生物の多様性を分かりやすく紹介した「土の中の世界」、生物の宝庫である「熱帯雨林」を再現したジオラマなどです。

危機コーナーでは、絶滅した動物をビデオで、絶滅のおそれのある動植物をはいく製と写真で見ていただきました。

このような現状と原因を知るとともに、どのようにすれば生物の多様性が守れるのか、私たちになにができるのかを、クイズコーナーなどで考えていただきました。

子どもなんでも動物相談

「ちゅうさんをよろしく」

長年担当していた亀井一成に変わり、5月から鈴木 忠が担当します。愛称は「ちゅうさん」といいます。「ちゅうさん」は、40年間動物園で働いていた大ベテランの飼育係です。

◆子どもなんでも動物相談のご案内

日時：日、祝日の午前10:00から11:30
午後 1:00から 3:00

場所：動物科学資料館 休憩ホール

内容：動物相談 動物紙芝居など

鳴き声のテレホンサービスもやっています。
078-881-8102に電話ください。



熱帯雨林のジオラマ（平成11年3月20日から8月31日）

ZOO

つとタイムズ

まんが：かわかみひろし

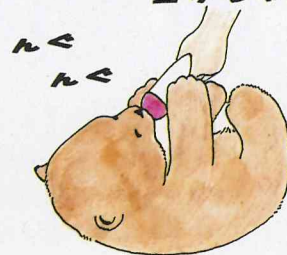
No.11

人工保育ラッシュ

チンパンジーの
育ちゃん



エムヒグマの
ヨッちゃん



1 2
3 4

保護された
オランウータン



獣医のM田さ...!?ん



チンパンジー「育ちゃん」の手と足（実寸）



編集後記

毎年、新しい命が誕生することは喜ばしいことですが、王子動物園でも、生後間もなく子育てを放棄する母親が増加する傾向にあります。

「はばたき」No.45の表紙写真に登場するチンパンジーの「育ちゃん(1998.12.13生)」もテーマIIのエゾヒグマの「良ちゃん(1999.1.14生)」も、母親に見放されたため、やむなく人工哺育に切り替えました。今後は、「エンリッチメント」の考え方にに基づき、ただ餌を与えるだけでなく、できるだけ野生に近づけ、動物本来の健康を維持し、早い時期に仲間たちと一緒に暮らせるように、訓練しながら飼育していきたいと思っています。チンパンジーの平均寿命40～45年、エゾヒグマの平均寿命は30年程度ありますので、この子たちの行く末と幸せを真剣に考え取り組まなければと痛感する今日この頃です。

どうかご来園の折には、「育ちゃん」と「良ちゃん」に温かい励ましをお願いします。

はばたき 45号

1999年9月1日発行

企画・監修 神戸市立王子動物園

☎ 078-861-5624

編集・発行 (財)神戸市公園緑化協会
動物園事業部

〒657-0838

神戸市灘区王子町3-1

☎ 078-801-5711

デザイン・印刷 (株)旭成社

☎ 078-222-5800



0 406070 000207

定価 300円（消費税込み）

99093000